

『新しい世界』まとめ

格差の歴史

18世紀 経済成長なし 農業の時代 マルサスの法則（所得が増えると人口が増える。
半ば 産業革命 一人当たり所得は増えない）

19世紀 格差拡大へ

20世紀 2度の世界大戦を経て ソ連の誕生
経済成長大 中産階級増 中国人民共和国誕生

格差縮小へ

1980～ グローバリズム・新自由主義 民営化 能力主義文化 富の集中

インターネット発展 15年間 1990～ 規制緩和 エリートたち トライと成功

デジタル資本主義 ～2005 格差拡大へ 市場重視 成功者の驕り

コスト低減 人の負担増

情報伝達・拡散スピードアップ 経済成長1/2 格差2倍

フェイクニュース・プロパガンダ 労働者の怒り ポピュリズム

真実は何か？ 格差縮小への提言 もっとも弱い人に寄り添う

トマ・ピケティ

・労使共同決定方式

コロナウィルス禍

資本主義を乗り越える

・資産への累進課税

触れ合いの減少

・25歳人へ12万ユーロ

ロックダウンは悩みある人へダメージ パニック障害 (DV など)

? 全体主義的監視社会へ 市民の健康保護の名の下に

経済成長は進歩か? 社会の疲弊、エネルギーの無駄使い

? 自主性を市民に与える社会へ

資本主義の世界 他人と自分の比較 金が尺度

所得が増えても満足しない (イースタリンの逆説) 豊かになっていくプロセスが大事 (格差なく)。

適応力 (レジリエンス) を生む価値観

もっとゆったりした生活 質素な生活 (かつての日本) でいいのでは

世界各国の連帯と信頼 対コロナウィルス、対地球温暖化

友情、愛、ユーモア、若者の知的、身体能力アップ (ユダヤの教育 のびのび育てる)

中国の台頭